

潮風がゆるる日本海と、緩やかな丘陵に囲まれた余市町。
その豊かな自然の恵みのなかで、農業を始めてみませんか。

トマトやいちご等のハウス栽培が主体で、高品質な野菜の安定供給が可能です。りんごを始め、ぶどう・なし・桜桃を中心とした、糖度が高く甘い果実も自慢です。



Info

人口	19,947人(男:9,224人/女:10,723人)	教育機関(施設数)	医療体制(施設数)
気温	[平均]8.4℃ [最高]33.5℃ [最低]-15.8℃	保育所(園).....3	中学校.....3
年間降水量	1,189mm(気象庁HPより2014年データ)	幼稚園.....3	高等学校.....2
		小学校.....5	特別支援学校.....1
			病院.....2
			一般診療所.....15(小児科3)
			歯科診療所.....12

就農の流れ

就農まで様々な機関がサポートいたします!

研修(2年間)	就農
<ul style="list-style-type: none"> ◎技術やノウハウの習得 (指定の農家) ◎資金・機材の相談 (JA余市) ◎農地の相談 (余市町農業委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎栽培技術などの相談 (後志農業改良普及センター北後志支所) ◎各種 助成制度の相談 (余市町農林水産課)

●国から年間150万円支給
●余市町から家賃助成(月額1万円を限度)

主な収穫

りんご・ぶどう・梨 収穫量 道内1位!
ミニトマト・桜桃 収穫量 道内2位!
いちご 収穫量 道内4位!

余市町新規就農活動支援センター 事務局 余市町役場 就農

〒046-8546 北海道余市郡余市町朝日町26
Fax. 0135-21-2144 Tel. 0135-21-2135(受付時間 9:00~17:00)

【関係組織】後志農業改良普及センター北後志支所/余市町農業協同組合/余市町/余市町農業委員会
<https://www.town.yoichi.hokkaido.jp/sangyou/jouhou/nougyou/hajimetemimasenka.html>



余市で、夢を叶える。

余市町では、果樹・野菜栽培を通して夢を叶えたい新規就農者に対して、様々な支援・相談窓口を用意し、次世代の余市ブランドを作る担い手をサポートしています。

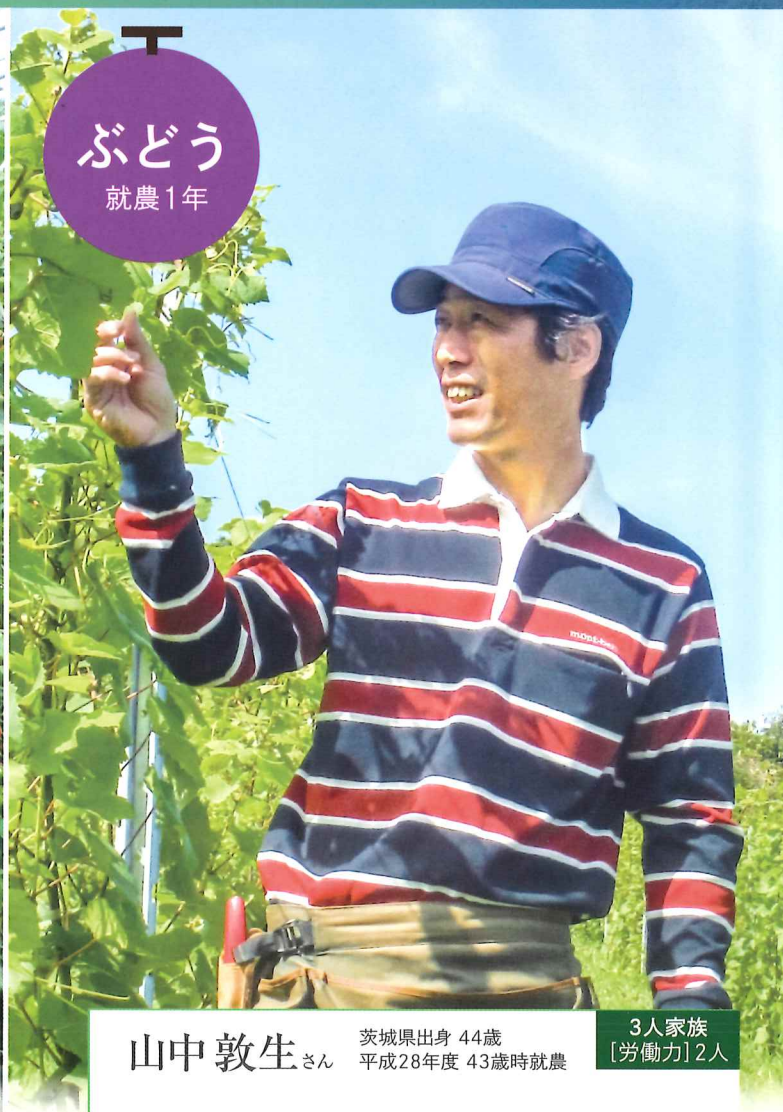
トマト
就農6年



渡辺 岳人さん 福岡県出身 36歳
平成23年度 30歳時就農 5人家族 [労働力] 3人

出荷先がしっかりしていたので、不安なく始められました。

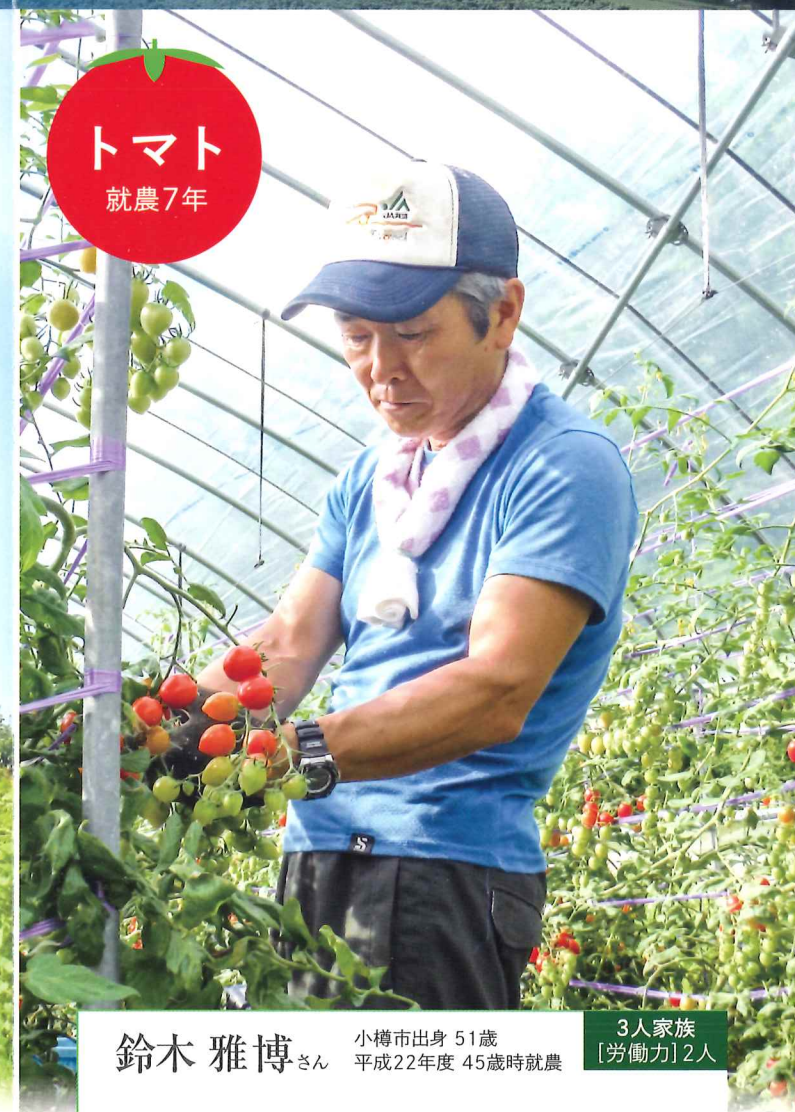
ぶどう
就農1年



山中 敦生さん 茨城県出身 44歳
平成28年度 43歳時就農 3人家族 [労働力] 2人

気候風土が良く、親切な人が多いから就農できました。

トマト
就農7年



鈴木 雅博さん 小樽市出身 51歳
平成22年度 45歳時就農 3人家族 [労働力] 2人

家族と一緒にできる仕事で、豊かな自然環境の中で子育てしたかった。

いちご
就農8年



廣岡 篤さん 滋賀県出身 47歳
平成21年度 39歳時就農 4人家族 [労働力] 3人

食べる人も作る人も、一人でも多くの人が幸せになれるような「いちご」を作りたい。

余市で就農した理由 余市で有名な師匠のトマトを食べたところ、その美味しさに家族みんなで感動して、ぜひこの余市で就農し、トマトを育ててみたいと思ったのがきっかけです。

師匠とのつながり 研修中にお世話になった師匠とは、今でも肥料と一緒に購入してもらったり、勉強会に誘ってもらったりして、多くのことを教えてもらっています。とても良い関係だと思っています。

今後の目標 経営的にはかなり安定してきたと思いますし、病害虫対応など栽培技術も身につけてきたという実感があるので、今後は規模を拡大してジュースの販売量を増やしていきたいと考えています。



新規就農者への一言 美味しいものをたくさん作るための技術を身につける心構えと、しっかりとした経営計画が重要です。ぜひチャレンジしてください！

余市で就農した理由 余市は果樹栽培の歴史も深く、ワイン葡萄栽培に適した気候風土と、ワイン特区として認定されている「まち」でもあり、すでにワインづくりで成功されている方が存在していたので不安なく就農できました。

師匠とのつながり 研修中に多くのことを学んだ「ドメーヌ・タカヒコ」は、私がお手本とする農園なので、今も時間があれば見学に行き、いろいろなことを教えていただいています。

今後の目標 自園の葡萄の収穫量をしっかりと確保し、より安定した経営を目指したいと思っています。



新規就農者への一言 余市は気候風土や環境が良いのはもちろん、優しく親切な人が多いので、地元以外や道外から来てもとても就農しやすい土地柄だと思います。

余市で就農した理由 私が長男でもあるので、できれば実家(小樽市)の近隣で農家をやってみようと思いました。トマトは初期投資も少なくてできるので、迷うことなく就農できました。

師匠とのつながり トマトの栽培技術はとても奥深いので、研修でお世話になった師匠には今でも相談に乗ってもらいアドバイスをいただいています。出荷先も同じグループに入れてもらうなど、良好な関係が続いています。

今後の目標 経営的には安定していますが、もっともっと一反(約10アール)あたりの収量を増やしていくのが目標です。



新規就農者への一言 「農業をやりたい」という熱い気持ちはもちろん大切ですが、「人」との縁もとても大切だと実感しています。どうぞ人とのつながりを大事にして、頑張ってください。

余市で就農した理由 もともと農業をやりたいと考えていて、妻の実家(札幌)からも近く、良い畑と良い人たちに巡り会えたので余市で就農しました。

師匠とのつながり 中札内村で研修させていただいた師匠は、私の農業の道筋を作ってくれた人。現在も、わざわざ中札内村から自園の様子を見にきてくれるなど、良い関係を維持できています。

今後の目標 収量及び経営状態も安定しているので、現状をしっかり維持しつつも、少しずつステップアップして成長していきたいと思っています。



新規就農者への一言 農業は「力」を注げば注いだ分、良い「答え」を返してくれるものです。ぜひ勇気を持ってチャレンジしてほしいですね。